

だいじゅうにしょう 第十二章

ゆきはどこだ？

つぎ あさ おかみ お お み あ
次の朝、女将が起きると、ゆきが見当たりません。「あの子は一体どこだろう？」と
おも しろ
思いました。「まだお城にいるかな？」

おかみ しろ いそ い しろ つ おんせん おかみ さくぼん
それから女将は城に急いで行きました。城に着いてから「温泉の女将です。昨晚、う
さどうか わかとの ふるま まい おんせん かえ
ちの茶道家は若殿に振舞うためにこちらに参りましたけど、温泉に帰ってきませんで
した。まだ城におりますか」と守衛に聞きました。

ま しゅえい い
「ここで待つように」と守衛は言いました。

ま かりうもん き さくや さどうか おんせん かえ
間もなく家老が門に来ました。「昨夜、茶道家は温泉へ帰ったはずじゃ。そちらに着
いていませんか」と聞きました。

も おかみ こた
「まだ戻っておりません」と女将は答えました。

し かんしゃいた しろ さどうか み しんばい およ かりう い
「知らせに感謝致す。調べさせて茶道家を見つけよう。心配には及ばん」と家老は言
いました。

おかみ おんせん かえ かりう わかとの ほうこく しゅえい そうさく はじ
それから女将は温泉へ帰り、家老は若殿に報告しました。守衛らはゆきの搜索を始め
めい
るように命じられました。

ま かりう わかとの ほうこく わかとの みち とちゅう き け
間もなく家老は若殿にまた報告しました。「若殿さま、道の途中でこの切れた毛の
うでかざ きぬ き はし み あらそ けいせき
腕飾りと絹の切れ端を見つけました。争った形跡がありました」

「そうか。その場所に案内しなさい。守衛と猟犬を連れていってくれ」と若殿は言
いました。

わかとの しろ あと
そして、若殿たちは城を後にしました。